

＜スタッフ紹介＞

役 職	スタッフ名
部 長	藤田 祐生
医 長	元木 彩子
副医長	竹村 萌
非常勤医員	大前 政利
非常勤医師	松本 憲

＜特色と概要＞

【初診患者数と紹介率】

初診(再初診含まず)1,829名(紹介率83.6%)

【顎顔面外科としての診療科体制】

当科は1997年10月に新病院の開設に伴い新設された(2025年3月で25年6ヶ月が経過)。大阪大学歯学部第二口腔外科(顎口腔腫瘍外科学講座)を母体としている。

診療チェアユニットは従来の2台で変わらないが、2022年度より周術期口腔機能管理の取り組みを始めている。

医師は常勤3名で、前部長の大前医師は2024年3月で定年退職となり(非常勤医員で在籍;月火水)、2024年4月から藤田医師が部長として赴任した。非常勤医師として松本医師が引き続き外来診療にあたっている(毎週火曜から、第1・第3火曜午前に減枠)。歯科衛生士は常勤2名、非常勤1名の体制で変わらない。

学会研修施設として現在、日本口腔外科学会准研修施設に認定されている。

1) 口腔がん・頭頸部がん

2024年度に頭頸部センター(耳鼻咽喉科頭頸部外科・形成外科・口腔外科合同)が発足し、悪性疾患については多職種でカンファレンスを行い治療にあたるようにした。

治療は標準治療に準じて行っているが、患者背景・意思を尊重しながら治療法を選択している。再建手術が必要な進行癌については形成外科の協力を得ながら対応している。

手術適応のない進行症例や手術拒否例などでは、全身化学療法や、選択的動注化学療法も行っている。

ホウ素中性子捕捉療法(BNCT)は、かつては京都大学複合原子力科学研究所(熊取町)において大阪大学口腔外科と共同して行っていたが、現在は関西BNCT共同医療センター(加速器)に依頼している。

光免疫療法(アルミノックス治療)が頭頸部がん治療において保険適用となったが、現状では当施設は認定施設の要件を満たしておらず行うことはできない。

2) 顎顔面形成外科(唇顎口蓋裂・顎変形症)

顎変形症の骨切り手術は口腔外科におけるメジャーサージェリーのひとつであり、引き続き行っている。

一方、唇顎口蓋裂の治療・手術はこれまで大前医師が行っていたが、全国的に症例の集約化が進んでいること、成人するまでの一貫治療を要することから、本年度の初診患者から当科では行わない方針とした。

3) 顎顔面外傷(顔面皮膚・顎骨骨折・歯牙外傷)

当施設は泉州救命救急センターを擁しており、重度の顎顔面骨骨折・軟組織損傷、歯牙破折に対して総合的な観点から当科でも治療・手術を行っている。とくに顎骨の整復や咬合状態の回復は外傷治療後の咀嚼機能や顎関節運動に重要である。

4) 埋伏智歯・顎骨嚢胞・良性腫瘍・顎骨骨髓炎

埋伏状態の智歯は抜歯適応になることが多いが、複数本の同時抜歯など比較的侵襲の大きくなる場合は短期入院下(静脈内鎮静法や全身麻酔)にて積極的に行っている。

薬剤に関連した顎骨壊死が近年増加しており、保存的治療のみならず、根治的治療としての外科手術にも取り組んでいる。

5) インプラント関連治療

インプラント治療(自費診療)については基本的に行わない方針に変更した。口腔腫瘍切除術などで生じた顎欠損に対しては継続していく(保険診療)。

6) 歯性上顎洞炎

根尖病巣が原因の上顎洞炎は、CTなど画像評価が必要であるが開業医では診断が困難な場合も多い。また他院では抜歯が必要と判断される症例でも、当科では下鼻道対孔形成術を併用してできるだけ歯の温存に努めている。

＜今年度の反省と来年度への抱負＞

当科診療では診療チェアユニットが必須であるが、常勤医3名、非常勤医2名に対して2台のみであり慢性的に不足している。これについては院内で協議を続けてきたが、今後、周術期口腔機能管理に対応するためのチェアユニット1台が増設される予定である(2025年度の予定だが詳細は未定)。

外来小手術について、初診当日の処置依頼については健康な患者の抜歯症例に限定することにした(従来は有病者や、抜歯以外も即日処置の対象であった)。そうすることで医療面接の簡略化や処置に対する効率化が得られ

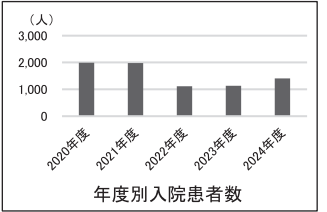
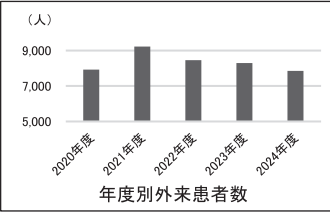
やすくなった。

人員体制や診療スペースは限られており、引き続き効率性や安全性を考慮した外来診療ならびに入院手術を心がけていきたい。

<実績>

患者数(外来及び入院、延べ人数の推移) (人)

年度	初診	外来		入院	
		延べ患者数	1日平均	延べ患者数	1日平均
2020	1,600	7,924	32.6	1,987	5.4
2021	1,588	9,223	38.1	1,974	5.4
2022	1,682	8,457	34.8	1,111	3.0
2023	1,786	8,293	34.1	1,131	3.1
2024	1,829	7,853	32.3	1,403	3.8



手術件数

手術名(入院)		手術件数 (件)		
		2024年	2023年	2022年
歯・歯槽外科手術(埋伏歯抜歯など)		61	61	46
顎堤形成術、骨隆起形成術		3	1	4
インプラント関連手術 (植立、摘出、上顎洞底挙上術など)		4	0	3
消炎手術(膿瘍切開、顎腐骨除去など)		10	9	3
良性腫瘍・嚢胞摘出術		41	22	29
唾液腺手術、唾石摘出術		5	3	2
上顎洞手術(下鼻道対孔形成術など)		2	2	0
顎顔面骨折(下顎骨骨折など)		20	11	24
抜釘術		13	12	1
顎変形症手術(骨切り術)		3	6	4
顎関節手術(習慣性脱臼など)		1	0	2
悪性腫瘍	手術(舌部分切除など)	19	16	9
	頸部郭清術	6	7	2
	動注化学療法(ポート留置)	1	5	3
	再建手術(遊離皮弁など)	6	9	2
口唇形成、口蓋形成、顎裂部骨移植		1	5	2
合計		196	169	136

日本口腔外科学会の方法に準じて1/1～12/31の期間で集計
(重複例あり)

手術名(外来)	手術件数 (件)		
	2024年度	2023年度	2022年度
埋伏歯抜歯	1,358	1,190	1,177
単純抜歯	695	247	280
外傷(硬・軟組織)	16	11	5
良性腫瘍切除	68	47	50
消炎処置	16	17	17
生検	84	88	64
瘻孔閉鎖	3	1	2
歯根端切除術	38	8	32
唾石・ガマ腫・粘液嚢胞	1	1	2
歯の移植	9	8	5
インプラント留置	0	0	5
小帯形成術	4	4	4
歯槽堤形成術・骨隆起切除	9	11	9
埋伏歯開窓	5	7	14
その他	70	9	18
合計	2,376	1,649	1,684

(重複例あり)

周術期口腔機能管理

年度	患者数(人)	延べ件数(件)
2020	0	0
2021	23	37
2022	168	430
2023	246	636
2024	253	616